

国家の存するところ統計あり…その原書は？

奥積 雅彦（総務省統計研究研修所教官）

1 はじめに

平成 17 年（2005 年）の内閣府経済社会統計整備推進委員会の報告¹をはじめ、統計関係のコラムや会議資料²にモーリス・ブロックの「国家の存するところ統計あり」が引用されていますが、この文言は、一体どの著書に由来するのか、誰が翻訳したのか…など、素朴な疑問が生じたので、調べてみることにしました。本稿では、その一端を紹介します。

○内閣府経済社会統計整備推進委員会「政府統計の構造改革に向けて」（平成 17 年²⁰⁰⁵年 6 月 10 日）

1. 基本的な考え方

（1）統計が果たすべき役割

統計は、人口、経済、社会等に関しその集団の状態を客観的に把握することで、国や社会の姿を映し出す「鏡」となり、進むべき方向を示す「羅針盤」ともなる。国家の成立以来、洋の東西やその名称の如何を問わず、とりわけ軍事・財政上の必要に端を発して統計事業が連綿と行われてきた事実はその証左とも言える。「国家の存するところ統計あり」との 19 世紀フランスの統計学者モーリス・ブロックの言葉は、そうした統計の本質をよく表している。…

2 モーリス・ブロックのプロフィール³

フランスの統計学者。1816 年ベルリン生まれ、1818 年パリに移住、1843 年農工商務省一般統計局に出仕、1853 年同局次長、1861 年辞職。その後、道徳及び政治家大学の授業を担当。1901 年永眠。

太政官政表課長杉亨二の働きかけにより、1876 年ブダペストで開催の第 9 回万国統計公会で日本の名代人をつとめるなど、日本の統計の発展に貢献。

¹ <https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/special/statistics/promote/report.pdf>

² 統計関係のコラムや会議資料で「国家の存するところ統計あり」が引用されている例
・総務省統計局HP「統計学習の指導のために（先生向け）」（平成 22 年 5 月 12 日～）（統計の歴史を振り返る～統計の 3 つの源流～）

<https://www.stat.go.jp/teacher/c2epi1.html>

・舟岡史雄「統計の不正が起きた理由と罪の深さ」（平成 31 年 2 月 8 日 WebRonza）（日本統計学会公的統計に関する臨時委員会 報告書第一部資料編にも所収）

（WebRonza）

<https://webronza.asahi.com/politics/articles/2019020600008.html>

（日本統計学会公的統計に関する臨時委員会 報告書第一部資料編）

https://www.iss.gr.jp/wp-content/uploads/kouteki_toukei_report_material.pdf

・令和元年（2019 年）7 月 22 日 第 1 回厚生労働省統計改革ビジョン 2019（仮称）有識者懇談会における事務局からの説明

https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_06034.html

³ 【参考資料】：高橋二郎「萬國統計協会名譽會員佛國モーリス、ブロック氏小傳」（統計集誌第 259 号）

3 「国家の存するところ統計あり」の文言はどの訳書にあるか？

「国家の存するところ統計あり」の文言は前掲の資料で登場するものの、当該資料では訳者について言及されていませんでした。そこで、国立国会図書館デジタルコレクションからモーリス・ブロックに係る訳書を調べてみました。その結果は次のとおりです。

①モーリス・ブロック著、小野清照訳 「統計論 第1,2巻」(1887年) ⁴ ⇒小野清照：参考1、2	第1章(統計学の起源)の冒頭：「邦国あるより以来人統計を為すと云ふも敢へて過言にあらざるなり」
②モーリス・ブロック著、塚原仁 ^{まさし} 訳 「統計学の理論と実際」(1943年) ⁵ ⇒塚原仁 ^{まさし} ：参考3	第1章(統計学の創始)の冒頭：「国家の存する所統計ありとは何等誇張ではない。」

上記①と②の訳書の構成は、別記のとおり、いずれも19章からなっており、章のタイトルの訳文が一部微妙に異なる部分があるものの大半のタイトルがほぼ同じであることから、原書は同一とみられます。なお、①では原書を特定できる記述は見当たりませんでした。原書「Traité Théorique et Pratique de Statistique」とその訳本①の写真が統計学雑誌第601号⁶に掲載されていました。また、②の「訳者序文」をみると原書は「Traité Théorique et Pratique de Statistique」であることがわかりました。

原書については、統計図書館に蔵書(登録番号：YT8160008)がありました(総務省統計局HP(統計図書館)から「Block,Maurice」で蔵書検索)。

4 原書の冒頭部分

原書「Traité Théorique et Pratique de Statistique」(1878年)のChapitre premier(第1章)の冒頭部分に次の記述があります。これを直訳すると、「国ができてから統計を行ってきたと言っても過言ではない。」となり、上記①の訳書における小野清照の訳は直訳に近く、上記②の訳書における塚原仁^{まさし}の訳は意識ということだと思います。

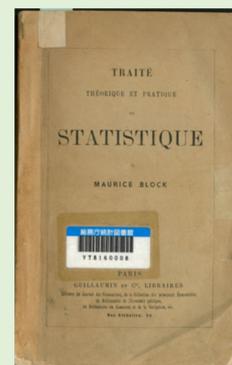
Il n'y a aucune exagération à dire qu'on fait de la statistique depuis qu'il y a des États.

5 おわりに

原書を直訳したのが小野清照で、意識して「国家の存するところ統計あり」という名訳を考案したのが塚原仁^{まさし}であることを後世に伝えたいと思います。そして、「国家の存するところ統計あり」は、その原書で理解することも大切であると実感しました。

【余談】塚原仁^{まさし}訳「統計学の理論と実際」の出版年は昭和18年(1943年)であり、「国家の存するところ統計あり」は、戦時下の日本に、統計を軽視することの過ちを暗に示唆するメッセージ(警鐘)のようにも思います。そして、その警鐘は、現代社会においても…真摯に傾聴しなければならないと感じました。

【原書(1878年)の表紙】



【画像】：総務省統計図書館所蔵

⁴ 国立国会図書館デジタルコレクションで閲覧可能

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/805744/12>

⁵ 国立国会図書館デジタルコレクション(※国立国会図書館/図書館送信参加館限定)で閲覧可能

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1061792/11>

⁶ 国立国会図書館デジタルコレクション(※国立国会図書館/図書館送信参加館限定)で閲覧可能

<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1488142/2> 口繪(モーリス・ブロック氏統計論原書及び譯本)

【参考1】小野清照のプロフィール⁷

生没年	不詳
職歴	陸軍省砲兵局を経て農商務省に勤務
訳書	・「統計論」第1巻～第4巻 モーリス・ブロック著、小野清照 訳(1887) ・「巴理万国大博覧会日本出品品評抄訳」小野清照 訳(農商務省庶務局, 1884) ・「仏蘭西学独案内」小野清照 訳(1884)→奥付に「静岡県士族」の記載あり

(注) その他(未確認情報)

沼津兵学校の教授陣をみると、教授手伝に小野清照という名前が登場していますが、これが統計論を翻訳した人と同一人物であると確認できる資料は見当たりませんでした。もし、同一人物であれば、沼津兵学校の頭取・西周(幕命により津田真道とともにオランダに留学し「統計学」を学び、我が国に移入)と員外教授・杉亨二(我が国近代統計の祖)と出会っていたこととなります。

【参考2】小野清照と小野弥一の関係

モーリス・ブロックといえば、明治4年(1871年)にフランスに留学した小野弥一に統計学を教えた一人であることを統計図書館ミニトピックス No. 24「ニューカレドニアの初代日本人移民団総監督は統計院 OB!」で紹介したところです。小野弥一(モーリス・ブロックから統計学を学ぶ)と小野清照(モーリス・ブロックの著書「統計論」を翻訳)の共通点を調べたところ、二人とも静岡県士族であることがわかりましたが、二人の相関関係はわかりませんでした。ただ、奇しくも、モーリス・ブロックと縁のある明治期の日本人二人の姓が同じで、二人とも静岡県士族であることは、筆者の粒子レベルの探究心に強い刺激を与えました。

【参考3】塚原^{まさし}仁のプロフィール⁸

生年	明治33年(1900年)長崎県生まれ。
経歴	大正15年(1926年)東京商科大学卒業。長崎経済専門学校教授、長崎大学商業短期大学教授、長崎大学名誉教授などを歴任。
訳書	「統計学の理論と実際」(昭和18年 ^{1943年})
著書	「人口統計論」(昭和15年)、「人口大辞典」(昭和32年)など
論文	「男女の割合と婚姻」(統計学社「統計学雑誌」昭和14年、第634号)、「佛蘭西に於ける外國人人口の意義に就て」(同第641号、同第642号)など

⁷【参考資料】：国立国会図書館HP「近代日本とフランス」、大野虎雄「沼津兵学校と其人材」

⁸【参考資料】：九州共立大学紀要(1972年9月)

【別記】「統計論」、「統計学の理論と実際」と原書の目次（章の構成）

小野清照訳「統計論」	塚原 仁 訳「 ^{まさし} 統計学の理論と実際」	(原書)「Traité Théorique et Pratique de Statistique」
		(CHAPITRE)
第一章 統計学ノ起源	第一章 統計学の創始	I. Les commencements de la statistique.
第二章 統計局ノ創設	第二章 統計官廳の創設	II. La creation des bureaux de statistique.
第三章 萬国統計會議	第三章 統計會議	III. Les congrés de statistique.
第四章 統計學述論及統計方法論	第四章 科學としての統計學、方法としての統計學	IV. La statistique comme science et comme méthode.
第五章 統計ノ法則	第五章 統計法則	V. Les lois statistiques.
第六章 統計学ノ限界	第六章 統計学の限界	VI. Les limites de la statistique.
第七章 死亡表及平均命數	第七章 死亡及び平均命數表	VII. Les tables de mortalité et la vie moyenne.
第八章 統計編制	第八章 統計組織	VIII. Organisation de la statistique.
第九章 書類ヲ拾集シテ抜抄スルノ方法	第九章 資料の蒐集及び集計方法	IX. Mode de recueillir et de dépouiller les documents.
第十章 問題ヲ出スノ術及尋問スヘキ條件	第十章 設問の方法—調査事項	X. L'art de poser les questious. Renseignements à demander.
第十一章 書類ノ公布及費用	第十一章 調査記録の公表と經費	X I. Publication des documents et frais.
第十二章 人口調査	第十二章 國勢調査	X II. Recensement
第十三章 書記法	第十三章 圖表法	XIII. La méthode graphique.
第十四章 緒論	第十四章 豫備的考察	XIV. Observations préliminaires.
第十五章 人口統計	第十五章 人口統計	XV. Statistique de la population.
第十六章 道德統計	第十六章 道德統計	XVI. Statistique morale.
第十七章 法教及公衆教育	第十七章 宗教及び國民教育	XVII.Cultes et instruction publique.
第十八章 經濟及社會統計	第十八章 經濟及び社會統計	XVIII.Statistique économique et sociale.
第十九章 政治統計	第十九章 政治統計	XIX. Statistique politique.